

## Step1

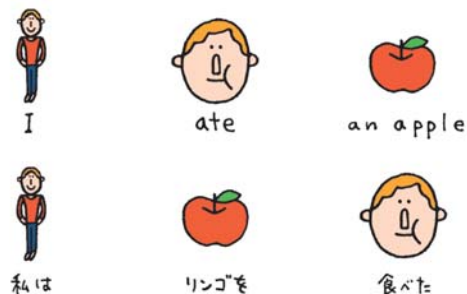
### 導入

# 基本文型とは何か

## 1 英語の語順感覚

英語を学ぶ際の最も大きな問題は、語順の感覚を身につけることが難しい点にある。そもそも、日本語と英語とでは、語と語をつなぎあわせて文を作るために必要な「語の配列規則」がまったく異なっている。

たとえば、日本語では「私はリンゴを食べた」のように、〈主語＋目的語＋動詞〉を基本とするが、英語では I ate an apple. のように、〈主語＋動詞＋目的語〉を基本としている。日本語では文末に現れる動詞で文が完結するが、英語では主語の後に動詞がくることが多い。このような違いを理解し、語順感覚を体得することは、英語学習において避けて通れない道である。

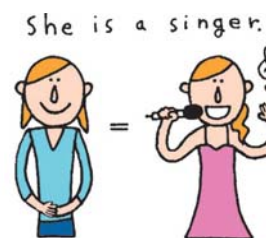


## 2 基本文型

英語の語順感覚を身につけるにはさまざまな方法がある。しかし、ここで強調しておきたいのは、**基本文型**を理解することの重要性である。もちろん、基本文型だけで英語のパターンをすべて網羅しているわけではないが、英語の語順感覚を体得する第一歩となる。その基本文型は、以下の5つのパターンからなる。

- (1) Birds **fly**. (鳥は飛ぶ。) 〈S + V〉
- (2) She **is** a singer. (彼女は歌手です。) 〈S + V + C〉
- (3) The cat **caught** a rat. (その猫はネズミを捕まえた。) 〈S + V + O〉
- (4) I **sent** her an e-mail. (私は彼女に電子メールを送った。) 〈S + V + O + O〉
- (5) We **call** our dog Max.  
(私たちは私たちの犬をマックスと呼ぶ。) 〈S + V + O + C〉

文を構成する要素は、**主語** (Subject = S), **動詞** (Verb = V), **目的語** (Object = O), **補語** (Complement = C) の4つである。これらの要素の配列パターンが5つあり、それらが上で挙げた基本文型となる。



## 3 文の構成要素

ここで、文の構成要素について理解を深めておこう。

**主語** (S) は動作の主体を表すもので、日本語の「～が…する」における「～が」に相当する。日本語では主語を表さないことも多いが、英語では必須要素のひとつである。

**動詞** (V) は、主語の動作を表すもので、「～する」に相当する。文を構成する最も重要な要素であり、文型は動詞の性質によって決まっている。

**目的語** (O) は、動作の及ぶ対象を表す。ただし、動詞の種類によって、目的語をとる場合とそうでない場合がある。上例 (1) と (2) で使われている動詞 (fly, is) は目的語を必要としない動詞で、**自動詞**と呼ばれる。それに対して、(3)～(5) で使われている動詞 (catch, send, call) は目的語を必要とする動詞で、**他動詞**と呼ばれる。

**補語** (C) は、動詞を助ける補完的な要素である。例文 (2) の a singer, 例文 (5) の Max は、補語として、それぞれ動詞を助けて文を完結させる働きをしている。

## 4 まとめ

以上を整理すると以下ようになる。

- |                   |                 |               |
|-------------------|-----------------|---------------|
| ① 〈S + V〉         | (主語＋動詞)         | } 動詞が目的語をとらない |
| ② 〈S + V + C〉     | (主語＋動詞＋補語)      |               |
| ③ 〈S + V + O〉     | (主語＋動詞＋目的語)     | } 動詞が目的語をとる   |
| ④ 〈S + V + O + O〉 | (主語＋動詞＋目的語＋目的語) |               |
| ⑤ 〈S + V + O + C〉 | (主語＋動詞＋目的語＋補語)  |               |